

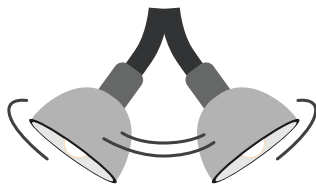
地震の揺れ(震度)と規模(マグニチュード)について

❖ 地震の揺れ(震度)と想定される被害

震度は、ある場所が地震によってどのくらい揺れたかを表します。日本では震度0から7までの数字で示されることになっており、5と6は弱と強に分かれているので、10段階あります。

震度4

- ほとんどの人が驚く。
- 照明などのつり下がっている物が大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



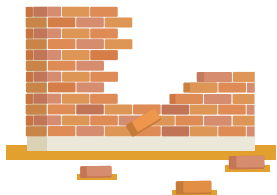
震度5弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度5強

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 多くの棚にある食器や本が落ちる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損し、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



❖ 地震の規模(マグニチュード)とは

「マグニチュード」は、震度とは違い、地震そのものの大きさ、つまり、地震の規模(エネルギー)を表します。マグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。逆に、マグニチュードの大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れず、「震度」は小さくなります。